vol.9

選書者：村上豪英

（一般社団法人リバブルシティイニシアティブ　代表理事）

●『誰が世界を変えるのか ソーシャルイノベーションはここから始まる』
著者：フランシス・ウェスリー , ブレンダ・ツィンマーマン , マイケル・クイン・パットン , エリック・ヤング

社会が大きく変わるとき、社会全体が変化するその流れに乗ることの大切さを伝えてくれる本です。同じように働きかけても、抵抗感ばかりを感じるときもあれば、何ごともなかったかのようにすっと変化が生まれるときもあります。その違いがなぜ生まれるのか、実感をもって理解することができる本ですし、うまくいかないときにもその理由を教えてくれて、なんだか励まされたような気持ちになれます。何度も繰り返し読みました。

●『グリーンネイバーフッド：米国ポートランドにみる環境先進都市のつくりかたとつかいかた』著者：吹田良平

アメリカのオレゴン州ポートランドが、全米で最も住みやすいまちへと進化したころ、何がまちで起こっていたのか、躍動的な構成でワクワクしながら読むことができる一冊です。反トランプのうねりやパンデミックの影響で、ポートランドの中心市街地の活気は失われてしまいましたが、この本を抱えてポートランドを隅々まで歩き回ったことは忘れられません。まちの栄枯盛衰のダイナミズムが伝わってくる、今でも手放せない本です。

●『アメリカ大都市の死と生』
著者：ジェイン ジェイコブズ

1960 年代のニューヨークを舞台として、大規模な都市再開発に反対姿勢を取りながら、その理論的背景を書き下ろしたジェイン・ジェイコブズの代表作。比較的小さな街区が、なぜ人々の生き生きとしたパブリックライフを支えているのか。新旧の建物が混在していることによって、まちは何から守られているのか。まちの活気について考えるときに、今でもまっさきに押さえておくべき、ヒントに満ちた古典だと思います。

●『ビジネス・フォー・パンクス　ルールを破り熱狂を生むマーケティング』
著者：ジェームズ・ワット

スコットランドからクラフトビールの醸造所を立ち上げ、世界中にインパクトを与えた著者によるビジネス書。冒頭からガツンと殴られるかのような衝撃に満ちていて、何か新しいことをはじめようと考えている人にとって、大いなる刺激となります。「ビジネスはいずれ死ぬ。だったら、ビジネスではなく革命をはじめた方がいい。」など、心を奮い立たせるような言葉が次々に出てくる一冊で、迷ったら再読を繰り返してきました。

●『なぜ今、仏教なのか――瞑想・マインドフルネス・悟りの科学』
著者：ロバート・ライト

日本語タイトルからは少し違う内容を想像してしまいそうなのですが、仏教の教えを理解することで、瞑想のもつ本当の意味を科学的に理解することができる本だと理解しています。私自身、心を静めるために瞑想をすることがありますが、神秘的な説明にはあまりしっくりきていませんでした。この本には、瞑想のときに感じることやその効果について、「そういう風に理解すると確かに納得できる」と腑に落ちる思索が綴られています。